

令和5年度東北地区高P連進路対策委員会報告書

担当：秋田県高等学校PTA連合会事務局

委員長	竹嶋美佳沙（秋田県：能代松陽高等学校）
副委員長	川田 諭（秋田県：大館桂桜高等学校）
副委員長	志田藤 ひとみ（岩手県：花巻農業高等学校）
委員	長内 俊忠（青森県：尾上総合高等学校）
	横山 隆行（宮城県：石巻商業高等学校）
	齋藤 久（福島県：相馬総合高等学校）
	長澤英一郎（山形県：新庄南高等学校）
事務局	多田 巧（岩手県：花巻農業高等学校）
	小野 寿夫（青森県：尾上総合高等学校）
	佐藤 幸也（宮城県：石巻商業高等学校）
	今野 貴文（福島県：相馬総合高等学校）
	高橋 直人（山形県：新庄南高等学校）
担当	秋田県高等学校PTA連合会事務局
	石井 潔（事務局長）
	佐藤 伸子（事務局員）

○第1回委員会開催 日程：6月14日（水）・15日（木）

会場：ホテルメトロポリタン盛岡本館

- ・新委員の顔合わせと、今年度の取組について協議をしました。
- ・会議では、秋田県高P連進路対策委員会と合同で実施することについて了承を得ました。
- ・今年度の活動は、秋田県公立美術大学の大学訪問と秋田県で活躍している企業家の講演会、そして研究協議を通しての進路対策の取組についての情報共有を行うことを確認しました。

○第2回委員会開催 日程：9月8日（金）

会場：秋田公立美術大学、イヤタカ

- ・秋田公立美術大学を訪問し、大学の取組（教育理念、カリキュラム、地域の活性化に向けた大学の取組等）について学びました。
- ・秋田公立美術大学では、1・2年生で基礎力を養いながら自分が学びたい分野や進むべき方向性を絞り込み、3・4年生では各専攻に分かれてアートやデザインの専門知識や技術を体系的に培っていくという特色ある

カリキュラムを提供しており、卒業生も、芸術の作家活動だけでなく、大学院への進学、就職、起業家等、様々な分野で活躍の場を広げているとのことでした。また、地域との繋がりを通して培った専門性を地域の人たちと実践し、地域貢献に力を入れている大学でもありました。

- ・会場を変えて、研究協議（各県・各校の進路対策の取組）を実施し、各県や各校のPTAの進路対策の取組について情報共有を図ることができました。
- ・会議終了後に、同会場で情報交換会を行い、研究協議で話し合われたことについて深く理解することで、相互の親睦を深めることができました。



大学の実習（ガラス工房）の現場を見学



副学長と参加者で記念撮影

○第3回委員会開催 日程：11月17日（金）
会場：秋田県生涯学習センター

①講演会

秋田県で地域活性に尽力している企業家を呼んで講演会を実施しました。

講演：「ひとを呼んで栄える秋田創り～次代の担い手を育てる親たちに期待する～」

講師：菓子舗榮太楼（株）代表取締役社長 小国 輝也 氏



小国輝也氏の講演会の様子

講演会では、秋田の経済事情や地域の魅力発見、地域活性に向けた小国氏の取組とその考え方、さらに、次代の担い手となる高校生とそれを支

える保護者の皆さんに期待すること等についてウイットに富んだ語り口で講演をいただき、満場の拍手をもって盛会に終わりました。

②ワークショップ型研究協議の実施

研究テーマ：「自らの未来を主体的に切り拓く生徒の育成

PTAによる支援のあり方～」

- ・ファシリテーター（佐藤伸子事務局員）から研究テーマの主旨と研究協議の進め方について説明してもらい、3つのグループに分かれて付箋紙を用いて意見を出し合っ意見をもとめ、PTAの支援のあり方について全体で発表しました。最後にアドバイザー（小国輝也氏）から講評をいただきました。（研究協議の発表内容は、次ページの「特集」に記しています。）



研究協議の様子

＜特集＞

テーマ：「自らの未来を主体的に切り拓く生徒の育成
～PTAによる支援のあり方～」

＜グループメンバー＞

- 第1班 秋田県：竹嶋美佳沙（東北高P連委員長）
宮城県：横山隆行（東北高P連委員）
秋田県：千田 光（秋田県委員）
岩手県：多田 巧（岩手県事務局）
- 第2班 秋田県：川田 諭（東北高P連副委員長）
山形県：相澤哲哉（山形県立新庄南高等学校長）
宮城県：阿部淳一（宮城県事務局）
秋田県：高柳智史（秋田県委員）
- 第3班 岩手県：志田藤ひとみ（東北高P連副委員長）
福島県：齋藤 久（東北高P連委員）
青森県：小野寿夫（青森県事務局）
秋田県：見田 希（秋田県委員）

上記のテーマにアプローチするため、家庭、学校、地域ができることについて付箋紙法を用いて意見を出し合い、まとめ、全体で発表しました。

＜第1班＞

- ・話し合いは「コミュニケーション」「情報の提供・共有」「親も学ぶ」「その他」の4つに集約された。
- ・「コミュニケーション」については、親子の会話や夫婦同士の会話を大切にして、家族の中での共通理解を図ることが重要。また、あいさつなどの基本的な生活習慣も重要。家庭は小さな社会である。あいさつは子どもが成長し社会に巣立っていく上で大切なコミュニケーションスキルである。
- ・「情報の提供・共有」については、子どもが自分の進む将来のキャリアを知る場所を多く提供してあげることが大事。学校とPTAが関わりながら職業体験の機会を作っている学校もあるようだ。

- ・「親が学ぶ」社会が多様化しているので、親自身もついていけるよう勉強して情報のアップデートをすることが必要になってきている。こどもの悩みに寄り添えるような知識が必要である。併せて勉強以外の社会も知っていかないとなかなか難しい。
- ・「その他」としては、子どもをできるだけ旅に出して色々経験させて経験値を上げさせることが自らの未来を主体的に切り開くためには大切なのではないか。

＜第2班＞

- ・話し合いは「キャリア支援の充実」「周囲が子どもに関心を持ち続けること」「組織を強化し学校が元気に」「子どもの体験づくり」の4つに集約された。
- ・「キャリア支援の充実」については、学校の就職指導は先生方が会社の今の実情をなかなか把握できていないのが現状である。それを補うためには、キャリア指導のできる外部人材を学校に置くことで生徒達がキャリア教育を学べる環境を作ることが必要である。
- ・「周囲が子どもに関心を持ち続けること」については、子どもへの関心が薄くなっている親や教師が多くなっているように感じる。もっと周囲が子どもに関心を持ってあげるような環境を作ることが大事。子どもの早期離職防止にも繋がるのではないか。
- ・「組織を強化し学校が元気に」については、学校をもっと良くしていくためには、学校の先生方が不得手なところを親がサポートすることが大切である。先生方は、地元とのパイプが限定的（県立学校は県との関わりがあ

るが、地元市町村との関わりが薄い等) であるので、それを繋ぐのが親の役割ではないか。保護者がもっと学校に関わることで、学校の課題解決に繋がり、学校がもっと元気になるのではないか。

- ・「子どもの体験づくり」については、子どもたちがもっといろいろな体験ができるように、家族で外に出る機会を増やすことが大切ではないか。

＜第3 班＞

話し合いはテーマにアプローチするために「家庭でできること」、「学校でできること」、「地域でできること」の3つ視点でまとめてみた。

3つの共通点は「コミュニケーション」である。家庭も学校も地域も互いにコミュニケーションを取り合える環境をみんなでつくることが理想である。

○家庭でできることは？

- ・子どもと常日頃からコミュニケーションを大切にして良好な関係を築く（子どもの友達や保護者との良好な関係を築く。PTA活動に参加し状況を知る。今日あったことを子どもと話しあう、朝のあいさつを大切にする。）
- ・保護者自身も子どもに自分の姿（社会の現実）をしっかりと見せる（子どもの話を聞くだけでなく、相互の情報交換が大切）

○学校でできることは？

- ・生徒と先生がコミュニケーションをとりやすい環境をつくる。これによって、子どもにとって学校が楽しく自分の居場所になる。そして、子どもは学校での出来事を家庭にも話してくれ、保護者も学校の姿が見え、学校と家庭が補い合える関係にもつながる（相乗効果）。
- ・社会の仕組みを学ぶ機会を多く提供する。その際、子どもを積極的に前に出

して学ばせてもらいたい。特に、選挙を学ぶ機会は是非やってほしい。実際に選挙管理事務所の職員を講師に選挙について学習する機会を作り、先生と一緒に模擬投票を体験し、効果を上げている学校もあり、投票率の向上が期待できる。

○地域でできることは？

- ・雪かきやボランティアなど地域への奉仕活動への参加を促す。
- ・地域の人材を活用し、職業人講話を保護者で企画提供する。
- ・保護者も地域の一人として知っている子だけでなく、他人の子どもにもできるだけ声かけをする（あいさつが自然に出る大人に育てほしい）。
- ・企業説明会に保護者も参加してみる。

(文責：秋田県高等学校 PTA 連合会事務局長 石井 潔)